

令和5年度 後期学校評価 学校評価報告書

鬼北町立愛治小学校 令和5年度2月

【評価基準】A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割未満の達成

項目	重点目標 評価指標	評定	評定値 目標値	学校による考察と改善方策				評価 基準	評価資料	評価 基準	アンケート結果(%)
				改善 策	改善 率	評価 基準	肯定率 全体算定率				
児童・保護者・教職員・地域の方の平均	ふるさと理解	A	前前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつてている。・学習発表会では、総合的な学習の時間・生活科を中心とした「ふるさと学習」の成果を発表した。他学年との発表を聞く中での学習の過程での学習の振り返りや、他学年との良い評価が多くあつたことにより、保護者や地域の方々と学びを共有することができた。	①学習が「ふるさと」について知り、「ふるさと」を伝え合い、「ふるさと」の良さを伝え合うことで、未来へどつねにげていく意識の芽生えがあることを、子どもたちにしきつかりと意識してもらいたい。 ②学習活動的につながりを通して個々が感じた良さを、授業の中で積極的に共有したり、その機会を確保したりすることなどで、互いに学びを深めさせていく。	98	児童アンケート A 保護者アンケート A 教職員アンケート A 地域有識者アンケート A	64 89 67 71	29 11 33 29	7 0 0 0	93 100 100 100	4 3 2 1
ふるさとを愛する心	ふるさと理解	A	・前前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつてている。・どの学年も、それぞれの年間指導計画に基づいて学習を進めることができた。それぞれの学習内容やねらいに沿いながら、積極的に地域の人材との交流を進めてきたが、後期は発表会が中心となり、活動に偏りが生じたという課題が見られる。主として、複数回又は定期的に同じ方と交流する等の学習計画を工夫していく。 ・主体的な学習を進めためには、単元の構想やねらいを明確にするとともに、教師の柔軟な対応が必要になつくる。	①6年間で発展的に学習できるよう、総合的な学習の時間や生活科等の全体計画や年間指導計画の見直しを図る。 ②地域人材という点では、大変充実している。今後は親しみを感じ、複数回又は定期的に同じ方と交流する等の学習計画を工夫していく。	100	児童アンケート A 保護者アンケート A 教職員アンケート A 地域有識者アンケート A	71 67 33 71	29 33 67 29	0 0 0 0	100 100 100 100	4 3 2 1
ふるさとを愛する心	ふるさと理解	A	・前前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつてている。・道徳や総合的な学習の時間等での学習の様子から、ふるさとを大切に思う気持ちが育つた。2学期は、2学年とも、お札の手紙や感謝の言葉等を送る心などして、発表後も、お札の手紙や感謝の言葉等を伝えることができた。	①ふるさとの良さや魅力を感じ、ふるさとを愛する気持ちが高まっている。ふるさと学習を通じて感覚や活躍場面を具体的に考え、実践化につなげていく。 ②交流や体験活動で得た学びを、来年度に向けた指導計画の見直しを図る。	100	児童アンケート A 保護者アンケート A 教職員アンケート A 地域有識者アンケート A	79 44 0 71	21 56 100 29	0 0 0 0	100 100 100 100	4 3 2 1
<p style="text-align: right;">学校の対応</p> <p>・ふるさと学習の推進について、学校の取組を評価いただいている。今後も、地域の伝統文化や自然、産業などを教材として、地域の人々とのつながりを大切にしながら、より発展のあるふるさと学習を展開していく。 ・次年度に向け、今年度の取組の検証・改善を行い、総合的な学習や生活科の年間活動計画の見直しを行っていく。</p> <p>・学習発表会等、地域の方にも足を運んでもらいたいことで普段以上の力を子供たちが発揮している。多くの行事等に参加いただける機会を作り、大勢の前でも物おじせず発表できる子供たちを育成していく。</p> <p>学校運営協議会 委員の所見</p> <p>・学習発表会等の様子を見ていたいのも、子供たちはよく学習を進めていると感じる。地元の人が知らないような内容を発表し、発表態度もすばらしく、堂々と発表できている。学習したことよく理解しているからできることだと感じている。 ・防災学習では、とてもすばらしい内容だつた。ケーブルテレビが後日収録し、町内にも学習の成果が放送された。校内だけでなく、町内にも発信することで、学びの共有がされていった。 ・地元の人が協力して盛り上げている地域行事の中に、子供たちの姿も見えた。そうした姿からも、ふるさと学習の成果は表れていると感じる。 ・今後も、地域とのつながりを大切にし、ふるさとを愛する子供たちの育成やふるさと学習を推進していただきたい。</p>											

4: そう思う 3:どちらかと思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

学校による考察と改善方策						4: そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない							
項目	重点目標	評価指標及び目標値 目標値	評定	改 善 策	評価資料	評価	4	3	2	1	アンケート結果(%)		
自他を尊重する心	織割り班活動など異学年集団での交流を通じて、友達の理解を深め、仲良く過ごすことができる。	児童・保護者・教職員	A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつている。 ・集会活動や清掃活動を織割り班として行っていきる。少ない人數ながら助け合つたり支え合つたりできる。 ・少人数のデメリットを補うためにも、授業や集会の時間を生かした交流を積極的に行っていくことを考えたい。	①集会活動や清掃活動等、織割り班は重要である。児童数は今後も減少していくが、組織力と工夫で行なわなければならない。 ②授業や集会の時間での交流を学習計画に位置付けたり、ICTを活用して学びを配信したりするなどして、人とのつながりを意識させる。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A A A A	71 33 50 57	29 67 50 43	0 0 0 0	100 100 100 100		
互いを大切にする心	返事やあいさつ、言葉遣いなどの習慣慣めに付けることができる。	児童・保護者・教職員	A	・前期同様、四者ともに比べると、やや低い評価となつている。 ・挨拶については、外来者には進んで気持ちの良い挨拶ができる。校外での生活の中でも、自分から進んで挨拶ができるようになりたい。 ・言葉遣いについては、より近い人間関係の中で乱される傾向が見られるようである。より良い人間関係を構築していくためにも、正しい言葉遣いを身に付けてほしい。	①言葉遣いは、より良い人間関係を構築するために必要なことを理解するとともに、自分の言葉遣いに気付かせるため、機会を逃さず粘り強く指導していく。 ②高学年の自覚を高めたり、リーダーの育成をしたりすることで、挨拶をすることが当たり前の雰囲気づくりを行っていく。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A A B A	64 11 0 71	29 78 83 14	0 11 17 14	93 89 83 86		
個に応じた指導	先生が困ったことや悩みなどを聞いてくれたりアドバイスをしてもらうことで、楽しい学校生活ができる。	児童・保護者・教職員	A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつている。 ・職員朝会や研修会等を活用し、情報交換を密にして、共通理解の下で指導や支援の体制ができる。 ・スクールソーシャルワーカーによる教育相談や担任以外との教育相談を設けることで、多面的に児童を様子を捉えることができる。	①教職員の共通理解の下で、児童一人一人見つめ、問題発生の未然防止に努める。 ②一人一人の児童について、次学年に向けて本人の様子の見取りや支援の引き継ぎをしつかやり行い、次の学年につなげるようになる。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A A A A	57 22 17 71	36 78 83 14	0 0 0 0	93 100 100 100		
学校運営協議会 委員の所見						<p>・言葉遣いの乱れについては、地域行事に参加している子供たちを見ていて、気にしなければならない印象は受けいない。言葉遣いが、子供たちにも、その日の体調や気分に良し悪しはある。挨拶にどうわれるより、日々の子供の様子の変化に気を付けるのでよいと感じる。</p> <p>・前期でも話題になっていたが、子供たちは地域でも、気持ちの良い挨拶をしてくれている。より良い関係づくりには挨拶は必要があるが、子供たちにも、その日の体調や気分に良し悪しはある。挨拶にどうわれるより、日々の子供の様子の変化に気を付けるのでよいと感じる。</p> <p>・言葉遣いの乱れについては、地域行事に参加している子供たちを見ていて、気にしなければならない印象は受けない。言葉遣いは大事なことだが、意識させすぎるとしやべらなくなると考えるよう子供たちが親しみのある言葉で話し、コミュニケーションをとれるようにしたい。</p>						<p>・子供たち自身も、元気な挨拶・気持ちの良い挨拶ができる学校を目指している。今後も、全校を全教職員で見守る体制を維持し、問題発生の未然防止に努めていく。</p> <p>・様々な場面を通して、自分自身の言葉遣いを振り返らせていきたい。そして、より良い人間関係構築に向け、積極的にコミュニケーションをとれる子供の育成に力を入れていこう。</p>	

学校による考察と改善方策									
項目	重点目標	評価指標及び目標値	評定	評価資料	評価	アンケート結果(%)			
主張的 主従的な学び	個別最適な学び と協働的な学び のベストミックス により、学習意 欲を高め、主従 的に学習を進める ことができる。	A 児童・保護者	前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっていた。 ・ICTを活用することで、個別学習や協働学習を進めることができる。また、必要な時間で、学習意欲を高めることで、学習意欲を高めることにもつながっている。子供たちのICTスキルは向上してきている。今後も、学習意欲の向上や学力向上につなげたい。	①児童のICTスキルは、向上してきている。現段階での課題は何かを明確にし、そのためには何をどのように行進していくか意識統一を図り、学習への積極的な活用を授業だけでなく家庭学習でのICT活用も多様にならなければなりません。児童への意欲化が見られたり、協働的な学びの場が増えてきた。児童はより上へつながるよう、個に応じたICT活用を進めていく。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A 79 14 7 0 93 A 44 56 0 0 100 A 33 67 0 0 100 A 71 29 0 0 100			
対話的 深い学び	学習形態の工夫 により、自分の思 いや考えを主 題的に、より良 く伝えることができる。	A 児童・教職員・地域	全体としては肯定的な評価となっているが、児童・保護者・地域有識者は高く、教職員は低い評価となっている。 ・音読集会等、進んで発表しようとする児童・音が増えてきたとともに伝え合っている必要がある。 ・児童の評価の低さは、児童の発表意欲に向上来ている。児童の司会団の育成や発表のスタイル(指名なし発表、全員発表など)も工夫して全体の発表力の向上を図る。	①少人数だけにマンネリ化を防ぐため、「発表」という形にこだわらず、時には自分の意見や考ふを伝げたりするなどアプローチの仕方を様々に工夫していく。 ②「主体的な司会団の育成や発表のスタイル(指名なし発表、全員発表など)も工夫して全体の発表力の向上を図る。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A 64 36 0 0 100 A 22 78 0 0 100 D 0 50 50 0 50 A 57 43 0 0 100			
学び継 けるた くま しさ	体験活動や協働 的学習したことの 理解を深め、様々な場 面で活用するこ とができる。	A 児童	全体としては肯定的な評価となっているが、児童・保護者・地域有識者は高く、教職員はやや低い評価となっている。 ・授業構成や教師の言葉かけ等により、子供たちが学習したこと活用しようとすると、多くの見方や考え方を活用しながら、子供たちの主体性を伸ばすことで、深い学びにつながる。 ・獲得したものを見方や考え方を活用しながら、子供たちの主体性を伸ばしていく必要がある。	①「活用」する場面を指導者側が意図的に作るなどの授業改善を行い、その経験や体験の積み重ねで、児童の主張的な「活用力」につなげていく。 ②ICTの活用や体験活動の充実度を図ることで、探究型の学習を進め、主体性や協働性を養い、深い学びにつなげる。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A 64 36 0 0 100 A 11 89 0 0 100 B 0 83 17 0 83 A 71 29 0 0 100			
学習・評 價・賞 付の確 立	家庭でも学習や 読書を進んで行 い、学習したこ とをきちんと付 けている。	A 児童	全体としては肯定的な評価となっているが、児童・保護者・地域有識者は高く、教職員はやや低い評価となっている。 ・ICTを活用し、各自のレベルアップノートを掲示することで、個々の取組が互いの刺激になり、学び合うことで感じられる。 ・タブレットの持ち帰りにより、自主学習の選択肢が増え、習慣化までとはいかなくとも、意欲は高まってきた。	①「家庭学習振り返り週間」の自己評価では、学習習慣の定着が見られる。レベルアップノートの取組には、工夫や丁寧さの向上が見られるようになつたが、個々への対応は継続して行なつてある。 ②一人一台端末の導入により、家庭学習の取組もこれまでと変わってきた。保護者と連携を図れるよう、取組や啓発などを積極的に発信していく。	児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	A 79 21 0 0 100 A 11 89 0 0 100 B 0 83 17 0 83 A 71 29 0 0 100			
・ICTについては、教師による資料や動画の提示だけではなく、子供たちが自ら自身による記録や資料作成など活用の幅が広がっている。今後も、各教員が有効な活用方法を取り組めることで、学習の質を改善し、より主体的に取り組めようとしている。 ・感染症には今後も注意しながらも、子供たちが自ら自身による記録や資料作成など活用の幅が広がっている。今後も、各教員が有効な活用方法を共有することで、学習の質を改善し、より主体的に取り組めようとしている。 ・努力できる人の手でなく、学校行事や教科においても、ひとつのつながりを意識した学習活動を開拓していく。 ・地域の人とのつながりを持つことで、子供たちは普段以上の力を發揮したり、教科書にはない学びをしたりできる。これからも、そうした人とのつながりの中での学びを大事にしていただきたい。	学校の対応								
学校運営協議会 委員の所見									

【評価基準】A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割未満の達成

4:そう思う

3:どちらかと思う

2:どちらかと言えば思わない

1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値 目標達成度	評定	学校による考査と改善方策							
				著	改	書	評価資料	評価	アンケート結果(%)		
現職教員育成活動	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修に励み、授業改善や指導に生かすことができた。	・校内研修で、ICTの活用方法や授業改善の方向性などを探りししながら取り組んでいる。 ・外部講師による公開授業と講話、愛媛新聞社によるeVST研修など、研修機会の充実が図られた。	A	①今後もそれぞれが研修したことを全体へと広げ、教職員の学びの共有を図っていく。 ②各種研修会に参加し、先進的な取組を吸収していくたい。	教職員アンケート	A	0	100	0	100	
危機管理体制	危機管理意識を高く持ち、速やかな報告・連絡・相談を徹底することができた。	・前期同様、報告・連絡・相談が迅速に行われており、事故等の未然防止に努めることができている。 ・毎月の安全点検を確實に行い、安全で安心して学習できる環境整備を行うことができた。	A	①報告・連絡・相談はよくできている。個々の危機管理能力をより高めていく。 ②地域の方にも協力いただき、安心して学べる環境づくりに今後も努力する。	教職員アンケート	A	100	0	0	100	
資質・能力向上	温もりと規律ある協働体制を整えることで、勤務時間の削減とともに教職員の資質・能力の向上や人材育成ができる。	・前期同様、協働体制は維持できている。大きな行事等は一段落したので、退勤時間も少し改善が見られる。 ・大きな変革に対するよう、様々な技能や知識を積極的に獲得し、業務に生かしていきたい。	A	①一人で抱え込まず、声に出したり気付いたりしながら、支え合う職場、仲間でありたい。 ②ICTの活用による効率化を進めるとともに、教職員の声を吸い上げ、業務改善につなげる。	教職員アンケート	A	17	83	0	100	
情報公開・管理	学校等の取組を積極的に発信するとともに、個人情報の保護・管理の徹底に努めた。	・学校によりやホームページの更新等、学校の取組を積極的に発信し、保護者や地域との学びの共有化を図ることができた。 ・著作権や肖像権に配慮しながら、文書作成、個人情報の保護・管理を行うことができた。	A	①地域とともにある学校として、各種通信・ホームページで学校の取組を今後も積極的に発信する。 ②著作権や肖像権を意識し、データ保存されているものの必要性と適切な削除についても考えていく。	教職員アンケート	A	33	67	0	100	
資質・能力向上	目標子ヤレンジを意識して活動に取り組んだ。	・前期よりも、意識を持って取り組んでいると感じられる。各自が進捗状況を把握し、残りの期間で達成に向けた努力を継続することで、資質向上に努める。	B	①各教職員の資質・能力の向上が学校の教育力につながっていいくことを自覚し、今後も研修・自己研鑽に励む。 ②後期のまとめを行い、自己の課題を明確にし、次年度へつなげる。	教職員アンケート	B	17	67	17	0	83
学校の対応				これまでの教職員研修や自己研鑽の姿勢は評価いただいた。今後も、子供たちにより良い教育が提供できるよう、使命感を持って、研修・研鑽に努める。							
学校運営経費金委員の所見				教職員の健康で豊かな生活のためにも、より一層の働き方改革は必要である。業務削減や効率化を図るとともに、PTAや地域諸団体との連携をより一層進めていく。							
・今後の大きな社会の変化に対応できる力を育てるためにも、保護者や地域との連携は不可欠である。そのためには、個人情報に配慮しながらも、積極的な情報発信を行っていく。				・何か問題が発生したら学校だけで解決するではなく、地域とともに問題解決に取り組んでもらいたい。地域として、全力で学校をサポートしていく。							